

わが国の障害者スポーツの課題と今後の発展 ～NPO法人スマイルクラブの活動に着目して～

生涯スポーツゼミナール 1213173 柳沢紫子

1. 研究動機・研究目的

2016年8月5日～8月21日まで第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)が開催され、2016年9月7日～9月18日までリオ2016パラリンピック競技大会が開催され、今年の日本の夏はオリンピックで大いににぎわった。リオパラリンピックには日本から132名(男子86名、女子46名)が参加し、金・銀・銅合わせて24個(金:0個、銀:10個、銅:14個)のメダルを獲得した。金メダルは獲得出来なかったものの前回大会のロンドンパラリンピックより多くのメダルを獲得し、これらの日本選手の活躍はテレビ、新聞、インターネットなど各種メディアで取り上げられ、社会的にも注目された。パラリンピックで障害者スポーツがメディアに注目されていく中、障害者の日常的なスポーツの参加率は障害がない人に比べて相変わらず低いのが現状である。わが国の障害者スポーツの現状を把握し、今後の障害者スポーツ振興のための課題を明らかにするとともに、課題解決の方略を検討していきたいと考え、研究することにした。

2. 研究方法

本研究では、障害者スポーツを受け入れている千葉県柏市にあるNPO法人スマイルクラブのスタッフ12名を対象にアンケート調査を行った。質問内容は、実施対象・実施場所・プログラムについて・指導スタッフ・安全配慮・スポーツ塾の必要性について(スポーツ塾の良い点と改善すべき点)である。各項目で細かく質問をし、インタビュー調査で聞く内容をアンケート調査にして記述で回答してもらった。

3. 主な結果と考察

実施対象は、総合型スポーツクラブで障害者スポーツを行うにあたり、まずは参加者集めが大事になってくると考えた。スマイルクラブは、障発達害センターや障害福祉課や相談所、学校にチラシや、イベントを開催してチラシ配りをしたりその他にもスマイルクラブは学校体育サポートを柏市と協働して取り組んでいる。その学校体育サポート先の学校でHRの時間を借りて案内したり、利用者さんの知り合いも方に紹介してもらったり、ホームページや口コミで広がったりして参加者が集まることもある。実施場所は、スマイルクラブは自前の施設をもっていないため、近隣の学校を借りてプログラムを行っている。借りている施設のため注意することがたくさんある。スマイルクラブは今も昔も施設の確保が悩みであり、専用の体育館があればスタッフが危険なものや場所の位

置を把握できていると思うので安全にプログラムを取り組むことが出来る。プログラムは、プログラムを行う際に怪我や事故を起こさずにやることを第一に考えている。そこから内容や指導方法の工夫をして利用者さんが満足して活動できるように工夫している。指導スタッフ・安全配慮は、安全にプログラムを行うために終わった後に必ずミーティングを行い反省や利用者さんの様子などを話し合い共通理解する。スポーツ塾に関して改善点の意見がなかったことからスポーツ塾は必要であることが分かった。

4. 結論

実施対象は、これからも積極的にチラシ配りや地域の学校に案内して利用者さんを増やしていく必要がある。実施場所は、マイルクラブは専用の体育館がない。施設確保が課題である。専用の体育館があれば危険な場所やものに子どもたちを近づけないための工夫ができる。スタッフからも専用の体育館が欲しいという要望があった。プログラムは、利用者さんがより良くスポーツを楽しめるためにゲームのルールやメンバー構成、マット運動や跳び箱などの指導の仕方などを工夫していく必要がある。指導スタッフ・安全配慮は、これからも安全に行えるようにミーティングを行いスタッフ同士の共通理解を怠らないようにする。スポーツ塾は、集団行動ができない子が個別指導でスポーツを楽しんで少しずつコミュニケーション能力を養える場所である。スポーツ塾のような教室が増えれば障害者スポーツの人口が増える。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本研究を通して障害者スポーツに今まで以上に興味を持つことができた。特別支援学校に実習で行った時も子どもたちのスポーツをする環境が授業での体育の時間と放課後の部活の時間しかなく学校以外でのスポーツをする環境がないと感じた。障害者スポーツを受け入れている総合型地域スポーツクラブが少ないのも今の現状である。スマイルクラブのように積極的に受け入れているクラブでもこれだけの課題がある。

障害がある人たちが障害のない人たちと同じように日常生活の中で気軽に身体を動かせる環境をこれから出来れば障害者スポーツがもっと注目されていくと思し障害がある人と障害がない人が交流できる場にもなると思う。

執筆開始当初は、文字数の多さなどに大変さを感じ書くことが正直嫌になっていたが、黒須先生をはじめスマイルクラブのスタッフの皆さんのご協力やゼミ員の仲間たちが助けてくれて書き終えることが出来た。スマイルクラブのスタッフの皆さんのご協力、黒須先生のご指導、お力添えをいただいたことを付記し、あわせて心から感謝を申し添えたい。